

work switch apron

ワークスイッチエプロン



仕事のモチベーションを上げる 食料品販売ユニフォームの検討

No.127 内藤研究室(アパレルメディア分野) A22AB013 伊部董

研究目的

衛生やマナーを重視する食料品販売の現場で使用されるユニフォームは、機能性を重視したものが多く、デザイン性は後回しにされがちである。今後の活躍が期待される若年層が意欲的に働くには、モチベーションの上がるデザインであることが必要と考える。

本研究では、食料品販売の現場で使用されるユニフォームにおいて、ユニフォームのデザインが着用者の仕事に対するモチベーションにどのような影響を与えるのかを明らかにし、モチベーションを上げるユニフォームの提案・制作をすることを目的とする。

研究方法・結果

予備調査

食料品販売のアルバイト経験の有無と、ユニフォームを着用した時の気持ちの変化について、女子大学生 84 名を対象に、集合調査法を用いてアンケートを実施した。ユニフォームを着ることで「やる気が出る」、「気持ちが切り替わる」などの心理的効果があることが分かった。

ユニフォームのイメージ分類

食料品販売ユニフォーム写真 50 試料について、女子大学生 20 名を対象に、KJ 法を用いてイメージ分類を行った。グループ分けでは、カフェやチェーン店などのイメージの用語と、オシャレ、ダサいなどの印象の用語が挙げられた。



図1 モチベーションを上げる要素の調査

モチベーションを上げる要素の調査

KJ 法と同時に、モチベーションの上がる要素の調査を行った。その結果(図1)、ジャケットやスカーフ、腰エプロン、また「羽織る」、「巻く」、「縛る」などの着用時の動作もモチベーションを上げるきっかけとなることが明らかとなった。これらの結果をベースにデザインを決定した。

作品制作

モチベーションが上がるユニフォームとして「縛る」動作を取り入れた作務衣型ベスト、腰エプロン、スカーフの3点で構成する「ワーク



図2 デザイン画
スイッチエプロン」をデザインした。(図2)

作品評価

制作した提案作品と、モチベーションの上がないユニフォームとして用意した既製品を女子大学生 8 名に実際に着用してもらい、調査結果から選出した 14 項目において 5 段階評価を行った。結果(図3)、すべての項目において提案作品の評価が高くなり、特にオシャレさや気持ちの切り替えにおいて、デザインの効果を示すことが出来た。

着用評価の結果

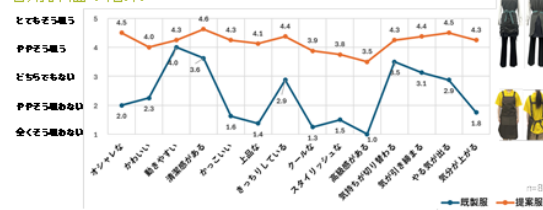


図3 着用評価

総括

モチベーションを上げるには、「やる気が出る」、「気持ちが切り替わる」などの心理的変化が重要で、「縛る」などの動作がポイントであることが明らかとなった。